

にこの地を拓いた神様として神社に祀られるようになりました。その後、仏が日本の神の姿で民の前に現れるという神仏習合という考え方が広がると、塩伊乃己自直命も次第に地藏菩薩の姿で崇められるようになったようです。

なお、名称の頭に付く「伊乃草分」とは、「伊乃(野)」の里を初めて開拓したこと＝草分という塩伊乃己自直命の業績からきています。

5

## とみおかくようとう 富岡供養塔 (とみおか てらのまえ 富岡宇寺ノ前)



供養塔とは、鎌倉時代から室町時代にかけて、死者の供養の目的で作られた石造物です。全国的には板碑とも呼ばれ、現在の墓地で見られる卒塔婆の原型であるという説もあり、中世における信仰世界を知る手がかりとなる資料の1つとして研究されています。

棚倉町内では、現在12基の供養塔が確認されています。富岡地区にはそれぞれ延慶2年(1309)、文保2年(1318)、延元4年(1339)に作られた3基と年号不明の1基があり、町内の供養塔の中で最も古いものです。

## 棚倉の名勝

1

## やみぞさん 八溝山

棚倉町の西側を画する八溝山地の最高峰であり、福島県や茨城県、栃木県の境ともなっている山が、八溝山(標高1022m)です。

山名の由来はいくつかあるようです。代表的なものを挙げてみましょう。1つは、久慈川の水源となる水を集める、山中の幾多にも入り組んだ溪谷をまとめて呼んだ総称として八溝と呼んだという説。また、今のように



街灯などがない時代に真っ暗な山へと向かう旅人に、土地の人びとが「ここから先は闇ぞ（やみぞ）」と教えたことから、読みの「やみぞ」がいつしか八溝へと転化したという説もあります。

八溝山は古くから人びととつながりを持った山でした。平安時代に編さんされた歴史書『続日本後紀』によると、承和3年（836）、八溝山から産出した黄金を朝廷に献上したとあり、山頂には八溝黄金神と呼ばれる神様が祀られていたことが分かります。

現在、山頂には八溝嶺神社が鎮座し、大己貴命（大国主命）が祭神として祀られています。延長5年（927）に作られた、全国の神社の格を定めた『延喜式神名帳』にもその名が見られることから、先述した八溝黄金神から続くものとも考えられます。

また、坂上田村麻呂（別項参照）や源頼朝といった歴史上の有名人にまつわる伝説が数多く残っており、また寛文13年（1673）には水戸黄門でお馴染みの徳川光圀が八溝山を訪れたことが記録に残されています。

## 2

### さくらしみず 桜清水（棚倉字北町）

棚倉小学校脇から、関口地区へと下る途中にある清水です。慶長14年（1609）に初代棚倉藩主立花宗茂は現在の棚倉小学校敷地に居宅を構え、大長屋と称して多数の桜を植えました。そして老桜の根元より湧き出た清水を桜清水と名付けて愛用したとされています。棚倉小学校校歌の歌詞にも織り込まれています。

